

## 旧篠ノ井線廃線敷の歩み

- 明治29年(1896) 信越線と中央線を結ぶ篠ノ井線の建設に着手。篠ノ井が起点となる
- 明治33年(1900) 篠ノ井～西条間が開通
- 明治35年(1902) 西条～松本～塩尻間が開通
- 明治44年(1911) 塩尻～篠ノ井間が篠ノ井線となる
- 明治45年(1912) 中央本線東京～塩尻～名古屋間全通  
蒸気機関車が客車や貨車を牽引
- 昭和36年(1961) 列車増発のため潮沢信号場開設
- 昭和48年(1973) 篠ノ井線全線の電化が完成  
\*地滑り対策と列車の高速化が必要となる
- 昭和63年(1988) 明科～西条間を新線に切替
- 平成21年(2009) 廃線敷のトレッキングコース整備が完了



JR明科駅

旧第二白坂トンネル  
駐車場

潮沢信号場跡中心

漆久保トンネル

けやきの森

東平

三五山トンネル

潮神明宮

## 旧篠ノ井線廃線敷 コースマップ



旧線を走る急行列車 (A付近)

JR明科駅から潮神明宮まで約  
1.2km (徒歩約25分) 駅前  
案内板の地図をご覧ください

潮神明宮 旧第二白坂トンネル駐車場  
距離、[距離標識、km]、徒歩(分)

0.0km	潮神明宮廃線敷駐車場、トイレ	(0)
0.6km	三五山トンネル北口	[30] (10)
1.6km	東平	[31] (30)
2.6km	けやきの森、トイレ [冬期閉鎖]	[32] (50)
3.4km	漆久保トンネル南口	[32.8] (65)
4.2km	潮沢信号場跡中心	[33.6] (80)
4.8km	旧第二白坂トンネル駐車場	[34.2] (95)

【作成：安曇野案内人倶楽部 矢花和成】

# 旧篠ノ井線廃線敷を訪ねて

けやきの森自然園

廃線敷には鉄道防備林として3万本ものけやきが植えられています。数百万年前までフォッサマグナの海底だったこの

地域は粘土層が形成されやすく、地滑りの災害が多く発生しました



(上)覚明様と普寛様  
(右上)築堤下の小沢川のアーチ橋



駐車場の奥に旧第二白坂トンネル(長さ2094m)の入口がありました。現在は閉鎖され立入りはできません



三五山(さごやま)トンネル  
レンガ造りで長さ125mです



潮神明宮 平安末期～鎌倉時代創建とされています



東平からは 蝶ヶ岳、常念岳、横通岳、大天井岳など北アルプスの山々の眺望が素晴らしいです



起点の塩尻駅からの距離標(キロポスト)で30.6kmを意味します



ここから 25 / 1000の上り勾配が始まるという標識です



カーブの外側で遠心力によるレールのズレを測定した基準器の残骸が所々に出ています



D 5 1

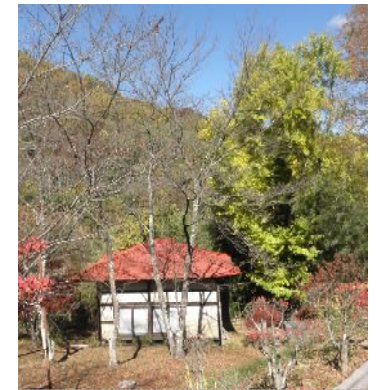


線路脇のコンクリートの円筒は斜面の地下水を抜くための集水井(しゅうすいせい)です



潮沢信号場中心

本線とスイッチバック式の松本方面および長野方面の引き込み線が交差していました。谷側の電柱の中ほどに作業台が残ります。距離標 33.6kmの地点です



潮沢の山間部には多くの小集落が点在し、お堂が多く見られます。昭和30～40年代までは葉タバコの栽培や綿羊飼育、養蚕で栄えました。